

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

令和3年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

◎思いやりのある子

◎丈夫で明るい子

◎想像力の豊かな子

◎やる気のある子

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 様々なものに興味をもち、保育教諭や友達との触れ合いを楽しみながら遊ぶ
- 1歳児 身近なものに興味をもち、保育教諭や友達と関わりながら、いろいろな遊びを楽しむ
- 2歳児 様々な遊びをする中で、友達に親しみをもちながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現し、いろいろな友達との関わりをもちながら楽しく遊ぶ
- 4歳児 様々な活動に目的をもって意欲的に取り組む中で、いろいろな友達と気持ちや考えを言葉で伝えながら、一緒に遊びを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に積極的に取り組む中で、一人ひとりが自分の考えに自信をもって行動し、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら、遊びや活動を進める

自己評価	評価内容
「B」	<ul style="list-style-type: none">・年度末現在の子どもの姿と照らし合わせてみると、どの年齢も概ね目標としてきた成長段階に達することができたと感じる。・3.4.5歳児は、コロナ感染・密を避けるため、様々な対策をとる中で、友達に親しむ・気持ちを伝え合うことや認め合うということに重きをおき、援助を行った。やはり様々な経験が少ないため、まだまだ個人差は感じられる。しかし、今後の成長においてねらいにする視点としては可能であると感じるため、引き続き着目し進めていきたい。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
環境を生かした保育の工夫	<p>☆自然を生かす保育 ＊園内研究・自由遊び・いちいの村遊び・アイスオーナメント制作・預かり保育など</p> <p>＊園内研究に関しては今後の活動に反映させられるよう、取組み内容やその際の配慮点などの反省や評価を具体的に残す。</p> <p>☆保育教諭一人ひとりの柔軟な想像力 ＊ホッピーディや園内研究を中心として、遊具や素材にこだわらず、ありのままの自然環境を生かし保育を工夫する。</p>
【自己評価】 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、園庭に大型遊具シルフィ号が完成したこともあり、その遊具を中心に、園全体の遊びの場としての環境と自然から織りなす環境の違いに気づくなど、一人ひとりが改めて、環境の重要性に気づききっかけとなった。 ・コロナの関係もあり、計画していたような保育を行うことは難しかった。しかし、様々な自然を生かしながら製作を楽しみ、遊びを行うことは出来たと感じた。 ・職員構成としては、若い先生が多い中ではあったため、今後も綿密な計画を立て、保育に生かせるよう援助を行う、その中でも逆に形にとらわれず自由な発想をもとに、環境を生かした保育も出来たように感じた。
職員間の意思疎通と連携体制	<p>☆情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが、園の会議録を確認できるよう記録し、報連相を意識する。また内容によっては職員連絡網（コドモンのアプリ）を使用し、素早い情報共有を意識する。 ・職種に関わらず、仕事に責任をもち、一人ひとりが情報の重要性を意識して対応を心掛ける。 <p>☆職員体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シフト勤務により、全体での打ち合わせを行う時間を見つけ園運営が円滑に進むよう努めた。 ・預かり保育については、多い日だと園児 80 人ほどで保育を行うことも多く、またコロナ対策にあたり密にならぬよう、安全で安心した環境での職員配置となるよう努めた。
【自己評価】 「B」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナでの休園や様々な対応に合わせて、コドモンのアプリを活用することで、状況に合わせて臨機応変な対応を心掛けた。 ・情報の共有という点では、毎年職員の入れ替わりもあるため、職員一人ひとりが園で知り得た情報の重要性をしっかりと認識し対応出来るよう、年度当初に時間を設けるなどの改善を図る。 ・前年度からの課題であった、バス連絡は、やはりミスが多かった。預かりやバス利用・英語やピアノ教室など対応が複数になってしまい、伝達や確認ミスが前半は多かった。しかし後半になると、注意点が明確になったことと、確認に確認を重ね、少しずつ、ミスは減ってはきた。だが、この点については、今後もしっかりと意識して努力する必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の充実化を深めるためには、しっかりとした計画と打ち合わせを意識して保育を進めることが出来たと感じた。 ・職員体制は人員を補強し強化できた。しかし、コロナ関連で職員に欠員が出来た時には、より安全の中で保育を進められるよう、園全体で対応することにより、充実した保育運営を行うことが出来たと感じた。
保護者理解と連携の強化	<p>☆保護者との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPブログの定期的な更新。 ・「コドモン」を活用した保護者との連携。 ・配布物の内容検討と見直し。 ・保護者との連携。(送迎時や電話での会話を充実させる) <p>*このコロナの状況もあるため、できる限りの範囲を意識して行う。</p>
【自己評価】 「C」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢別のお便りとしての写真を掲載してのブログや園のブログなど、実際の園での様子を保護者の方にご理解いただけるよう適時配信し、お伝えすることができた。だが、今後も掲載方法を検討し、工夫を行っていく必要があると感じた。 ・コドモンは、保護者の方にもたくさんのご意見をいただき、活用範囲も広げたことで有効利用へと繋がっていると感じた。 ・しかし、このコロナ時代でもあるため、直接保護者の方とゆっくり対話することが出来なかったことが残念でならない。
園の安心・安全に関する知識を高める。	<p>☆事故やケガへの危機管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとり様子をしっかりと把握しながら、遊具や設備などの安全面への意識を高める <p>☆災害について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災のみならず、様々な状況を想定した一人ひとりの意識を高める。
【自己評価】 「B」	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地が広い、園のため外部からの侵入など不審者対策として、職員一人ひとりが防災防犯ホイッスルを身に着け危機管理に努めた。また、ケガや事後なども未然に防げるよう遊び方なども細目に子ども達と再確認するのど周知徹底に努めた。 ・様々な状況を想定し、避難訓練を行うことで、職員の非常災害に対する意識には繋がったように感じた。

3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。）

評価項目	達成及び取組み状況
「教育保育の計画性」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・園で作成した「教育保育課程・指導計画」を使い、個々の成長やクラスの状況と照らし合わせながら、計画的に保育を実施することができた。 ・定期的に乳児・幼児クラスは月に1回、もしくは2回、学年部会を行ったことにより、職員間での連携も密に行われ、状況の変化にも素早く対応し見通しをもった計画をたてることができた。 ・感染症対策をしっかりと行い、保育の在り方や進め方について工夫しながら実施した。
「教育保育のあり方、幼児への対応」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式を踏まえた上で、その都度どのような教育・保育が望ましいのか検討し、工夫しながら対応した。 ・職員構成が若く、今年は気付きよりも職員一人ひとりの学びへと繋がるよう、意識しながら取り組んだ。また、その学びが子どもとの向き合い方にも生かされ教育・保育の大切さや対応の重要性へと繋がった。
「保育者としての資質と能力」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現在の状況に合わせた保育者としての正しい姿を検討し、どのような対応の仕方、援助が適切なのか話し合う機会を設けて取り組んだ。そのことにより、保育者としての資質能力の向上にも繋がったように感じた。 ・タブレット端末などを活用してオンラインによる研修に参加した。参加は自主制によるものではあるが、日々の業務からもそれほど多くの研修には参加できずいたため、時間を上手く使いながら、様々な視野を広げるため今後も積極的な参加を促せるよう心掛ける。
「保護者への対応」について 自己評価 「C」	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も残念ながら、参観日など子どもたちの成長した姿をお伝えする場が少なく、残念であった。感染対策などを更に工夫し次年度はより、保護者参加の可能性を模索しながら対応を工夫していきたい。 ・コドモンのシステムやお手紙などの発行物の内容・活用方法を検討し、保護者理解を深められるよう努める。 ・アプリを活用しての、保護者へのお知らせなどは、文章のみの配信によるものなのできちんと掲載内容が伝わる工夫が足りなかった点や情報の取り扱いには、より細心の注意を心掛ける努力が今後も必要である。
「地域の自然や社会との関わり」について 自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、天災が多いため月1度の災害避難訓練には、先ず職員一人ひとりがしっかりと意識し対応するよう心掛けた。 ・備蓄品やハザードマップなども随時確認し、適宜順応した対応を心掛けた。 ・今年度も、交流は難しかった。ただ、厚別西小学校さんとは、オンラインを活用し、楽しい交流をもつことも出来た。また、その交流が子どもたちの良い成長へと繋がったため、次年度もこの経験を活かし、検討を進めたいと考える。

<p>「研修と研究」について</p> <p>自己評価 「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究については、今年、新たな大型遊具が完成したこともあり、昨年度に引き続き、環境や異年齢についての主題設定で行った。年齢に合わせたねらいや援助などは概ね達成できたと感じた。自主性という点についても、昨年度の反省を生かし、気づきに繋がる様子は見られたものの、より実りある保育を行うためには引き続き、子ども・保育者の自主性を意識した対応を心掛けていく必要がある。 ・オンライン研修などに出来る限り意識して参加した。
------------------------------------	---

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 保育環境整備や環境構成の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験により、子どもの成長に繋がる環境構成やそのための整備工夫を考え、日常の保育に生かせるよう工夫する。 ・様々な環境の中で、子どもたち一人ひとりが自ら考え自主的に行動できるような保育や園児が密にならぬよう、保育の進め方や環境を意識した工夫を行う。 ・保育研究や活動の中から各年齢の育ちや状況など環境に適した遊びを意識し、成長に繋げられるよう意識する。
② 保育教諭の主体性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員体制の変化に伴い、報連相などをしっかりと意識し体制を整え、保育に努める。 ・様々な場面の中で、自分自身でしっかりとした目的や意志をもち、自主的行動へと繋げられるよう、個々に話し合いの場を設けられるよう取り組む。(個別面談などを細目に設ける)
③ 保護者理解と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも努力はしてきたが、課題が多いため、より意識して理解に繋がるよう努める。 ・感染予防対策をしっかりと行いながら、保護者理解に繋がることは何かを職員間でも常に意識し、開催方法や保育内容を熟慮し行う。
④ コロナウイルスに対する衛生管理の知識を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化している新型コロナウイルスに伴う対応を怠ることなく、日々しっかりと意識をし衛生管理に努める。 ・昨年までの経験を活かした保育を行う。その中でも子ども達が安全で楽しく過ごせるよう保育の創意工夫を行う。 ・保育者や子ども自身が感染症対策への理解を深め、しっかりとした知識を得て保育に携われるよう努める。